



「続く」を支える。

ヤマタネ

2020年3月期 第2四半期

決算説明会

2019年11月14日

株式会社ヤマタネ

(証券コード：9305)



1. 2020年3月期 第2四半期決算概要 P3
2. 2020年3月期 決算見通し P10
3. 中期経営計画進捗 P15
4. 参考資料 P19



1. 2020年3月期 第2四半期決算概要

- (1) 第2四半期事業環境
- (2) 連結決算概要
- (3) セグメント別決算概要
 - ① 売上高
 - ② 営業利益
- (4) 連結キャッシュフロー
- (5) 連結財政状況

1. (1) 第2四半期事業環境

物流

- ・消費税増税
- ・国際情勢
- ・人手不足



食品

- ・生産調整廃止の影響
- ・消費税増税
- ・配送コストの上昇



情報

- ・働き方改革
- ・セキュリティ強化
- ・消費税増税
- ・改元



不動産

- ・都市部の地価上昇
- ・都心部の賃貸オフィス
スペース需要増



◆報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間に当社から連結子会社である株式会社ヤマタネロジワークスへ「ストックテイ君事業」のうち陳列・棚卸事業を吸収分割の方法により事業譲渡いたしました。これに伴い、従来「情報セグメント」に含まれていた当該事業を「物流セグメント」に含めております。なお、2019年3月期上期実績のセグメント数値は、変更後のセグメント区分に基づいた数値となっております。



1. (2) 連結決算概要

(単位:百万円)

	19/3期 上期 実績	20/3期 上期		前年同期比 増減率 (%)	計画比 増減率 (%)
		計画	実績		
売上高	27,394	26,990	27,693	299 1.1%	703 2.6%
営業利益	3,350	1,670	1,923	▲ 1,427 ▲ 42.6%	253 15.1%
営業利益率	12.2%	6.2%	6.9%	—	—
経常利益	3,190	1,410	1,674	▲ 1,516 ▲ 47.5%	264 18.7%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,812	770	1,094	▲ 717 ▲ 39.6%	324 42.1%

1. (3) セグメント別 決算概要 ①売上高

(単位:百万円)

	19/3期 上期	20/3期 上期	前年同期比	増減率 (%)
物流セグメント	10,623	11,024	401	3.8%
食品セグメント	12,942	14,270	1,328	10.3%
情報セグメント	903	878	▲ 25	▲ 2.8%
不動産セグメント	2,925	1,520	▲ 1,405	▲ 48.0%

【増減要因】

物流

消費税増税前の駆け込み需要などもあり
保管残高が堅調に推移し運送収入も増加。
海外引越・港運通関業務も好調。

食品

顧客ニーズに対応した商品提供による
精米・玄米の販売数量の増加。

情報

汎用機のシステム基盤構築案件が
金融機関を中心に縮小したことによる
要員減が影響。

不動産

前期の販売用不動産売却に伴う増収要因
の剥落及び主力物件の建替えによる減収。

1. (3) セグメント別 決算概要 ②営業利益

(単位:百万円)

	19/3期 上期	20/3期 上期	前年同期比	増減率 (%)
物流セグメント	1,500	1,369	▲ 131	▲ 8.8%
食品セグメント	296	285	▲ 11	▲ 3.8%
情報セグメント	26	50	23	88.9%
不動産セグメント	1,950	660	▲ 1,289	▲ 66.1%
調整額	▲ 422	▲ 442	▲ 19	▲ 4.6%

【増減要因】

物流

大口顧客の取引内容見直しや人件費上昇による差益の縮小。

食品

コメの価格競争激化による差益の縮小と配送コストの上昇。

情報

売上は減少するも、差益率の高い開発案件が増加。

不動産

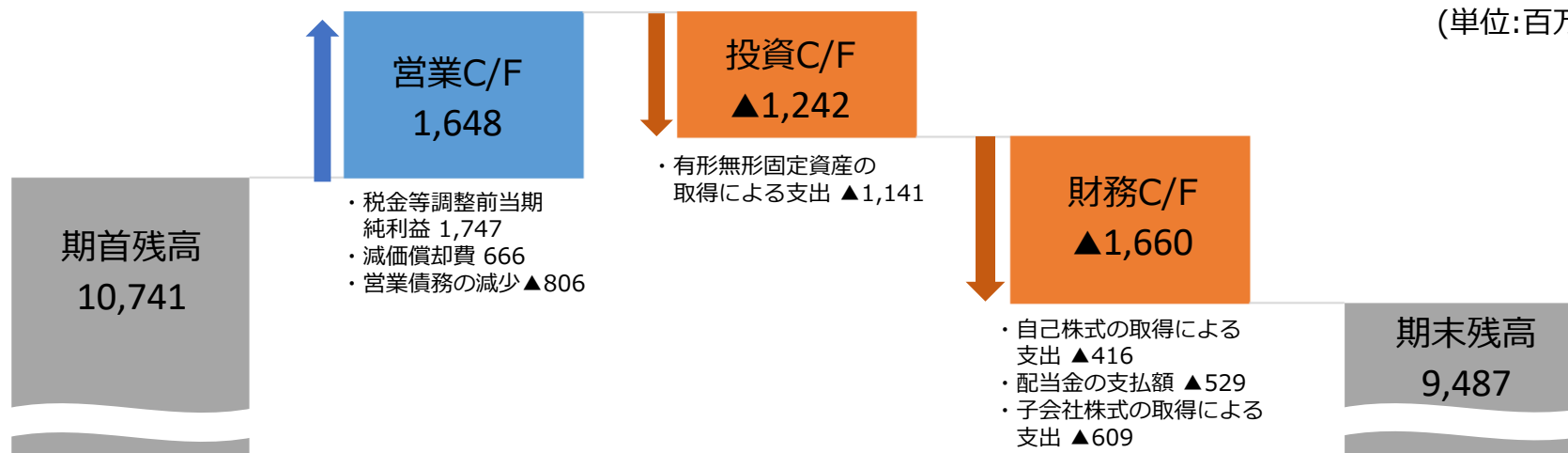
前期の販売用不動産売却に伴う増収要因の剥落及び主力物件の建替えによる減収。

1. (4) 連結キャッシュフロー

(単位:百万円)

	19/3期 上期	20/3期 上期	前年同期比	増減要因
営業C/F	3,568	1,648	▲ 1,919	税金等調整前当期利益 ▲1,386 営業債権及びたな卸資産回収減 ▲952 法人税等の支払減 +304
投資C/F	▲ 881	▲ 1,242	▲ 361	有形及び無形固定資産の取得による支出増 ▲519
財務C/F	▲ 1,409	▲ 1,660	▲ 251	短期借入金の純増 +611 自己株式取得による支出増 ▲415 子会社株式取得による支出 ▲609

(単位:百万円)

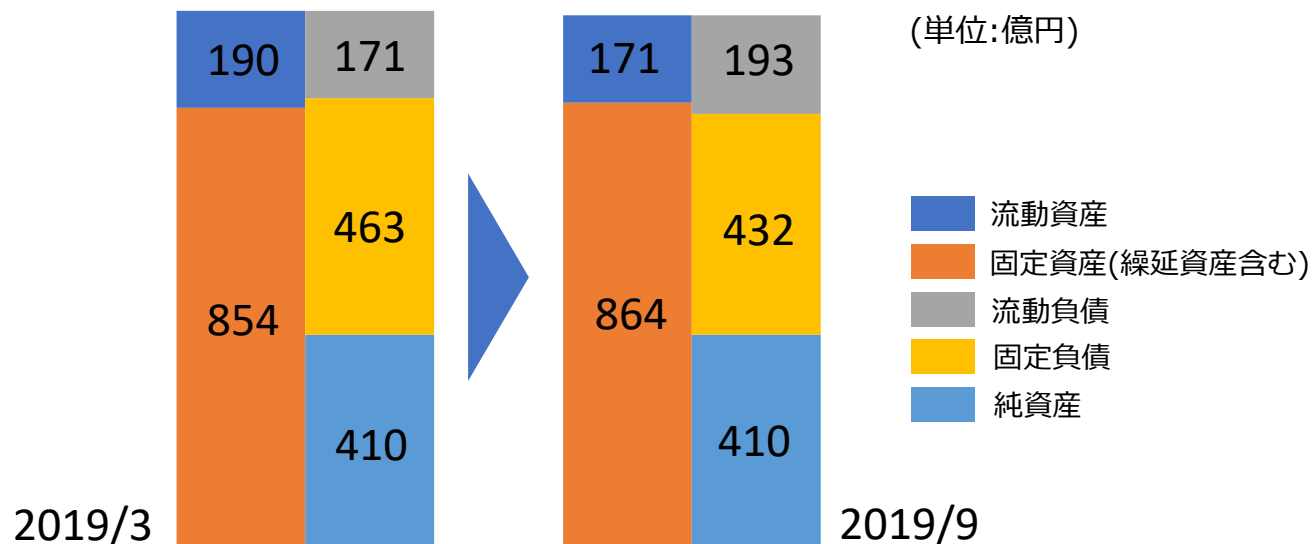


1. (5) 連結財政状況

(単位:百万円)

	2019年3月末	2019年9月末	増減額	増減要因
総資産	104,491	103,592	▲ 899	現金及び預金 ▲1,253
負債	63,430	62,528	▲ 901	営業未払金 ▲806 有利子負債 ▲14
純資産	41,060	41,063	2	利益剰余金 563, 自己株式 ▲416 有価証券評価差額金 418 非支配株主持分 ▲618

(単位:億円)





2. 2020年3月期 決算見通し

- (1) 第3/第4四半期の取り組み
- (2) セグメント別決算見通し
 - ① 売上高
 - ② 営業利益
- (3) 連結決算見通し

2. (1) 第3/第4四半期の取り組み

物流

- ①新設営業所の早期安定稼働及び初期費用の圧縮
- ②上期獲得顧客の顧客満足度向上
- ③ISO9001取得拡大と業務標準化の推進
- ④物流不動産物件のフル稼働
- ⑤印西新倉庫プロジェクトの推進

食品

- ①既存顧客の販売拡大と新規開拓
- ②既存仕入れ先との関係強化と市場ニーズに応えるための新規調達先の開拓
- ③多収穫米などの産地協働事業の拡大
- ④印西新工場プロジェクトの推進
- ⑤品質管理体制の維持・向上

情報

- ①既存取引先への追加案件獲得営業
- ②基盤構築における新規顧客の開拓
- ③レンタル端末の新機種への切り替えと新たなニーズ開拓による顧客満足度向上
- ④グループ内IT基盤の高度化と情報セキュリティの強化

不動産

- ①再開発計画(兜町・藤沢・五反野)の着実な実行
- ②既存物件の稼働率向上
- ③プロパティ業務の高度化

◆報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間に当社から連結子会社である株式会社ヤマタネロジワークスへ「ストックテイ君事業」のうち陳列・棚卸事業を吸収分割の方法により事業譲渡いたしました。これに伴い、従来「情報セグメント」に含まれていた当該事業を「物流セグメント」に含めております。なお、2019年3月期通期実績のセグメント数値は、変更後のセグメント区分に基づいた数値となっております。

2. (2) セグメント別決算見通し ①売上高

(単位:百万円)

	19/3期 実績	上期 実績	下期 見通し	20/3期 見通し	通期 増減額	通期 増減率 (%)
物流セグメント	21,392	11,024	10,826	21,850	458	2.1%
食品セグメント	25,771	14,270	14,430	28,700	2,929	11.4%
情報セグメント	1,824	878	1,022	1,900	76	4.2%
不動産セグメント	4,454	1,520	1,400	2,920	▲ 1,534	▲ 34.4%

【増減要因】

物流

営業所新設による取扱増で増収見込み。

食品

精米は主要量販店のシェア拡大と新規獲得による販売増。玄米は上期の販売増が大きく寄与し増収見込み。

情報

上期にシステム基盤構築で大口顧客の要員減があったものの、その他の開発案件の増加で増収見込み。

不動産

前期の販売用不動産売却に伴う増収要因の剥落及び主力物件の建替えによる減収。

2. (2) セグメント別決算見通し ②営業利益

(単位:百万円)

	19/3期 実績	上期 実績	下期 見通し	20/3期 見通し	通期 増減額	通期 増減率 (%)
物流セグメント	2,904	1,369	1,131	2,500	▲ 404	▲ 13.9%
食品セグメント	586	285	315	600	14	2.4%
情報セグメント	123	50	60	110	▲ 13	▲ 10.6%
不動産セグメント	2,573	660	490	1,150	▲ 1,423	▲ 55.3%
調整額	▲ 833	▲ 442	▲ 448	▲ 890	▲ 57	6.8%

【増減要因】

物流

売上は増加するも営業所新設による初期費用増・人件費増で減益見込み。

食品

販売数量増により差益率の縮小を補い、増益見込み。

情報

棚卸ハンディターミナルの新端末導入に伴う費用増等で減益見込み。

不動産

前期の販売用不動産売却に伴う増収要因の剥落及び主力物件の建替えによる減収。

2. (3) 連結決算見通し

(単位:百万円)

	19/3期 実績	上期 実績	下期 見通し	20/3期 見通し	通期 増減額	通期 増減率 (%)
売上高	53,442	27,693	27,677	55,370	1,928	3.6%
営業利益	5,353	1,923	1,547	3,470	▲ 1,883	▲ 35.2%
営業利益率	10.0%	6.9%	5.6%	6.3%	—	—
経常利益	5,096	1,674	1,366	3,040	▲ 2,056	▲ 40.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,213	1,094	726	1,820	▲ 393	▲ 17.8%



3. 中期経営計画進捗

- (1) 中期経営計画概要
- (2) 中期経営計画進捗
- (3) 投資計画（完成時期）

3. (1) 中期経営計画概要

ヤマタネ2022プラン

基本方針

1. 顧客満足度向上によるベース収益の増強
2. 長期戦略への計画的取組
3. グループ一体運営による企業価値の向上
4. 組織基盤の整備

重点施策

物流

1. 既存荷主への対応と新規荷主の獲得
2. 辰巳営業所開設（江東区<8,000坪>配送センター）
3. 印西アーカイズ倉庫・3温度帯倉庫(15,000坪)2021年～
4. 海外拠点の整備・拡充（タイ・ベトナム・米国・中国）

食品

1. 提案営業によるシェア拡大と新規顧客の開拓
2. 産地協働事業の拡大による調達先との関係強化
3. 印西新工場稼働による生産性・品質の向上

情報

1. 提案型ソリューションサービスの一括請負に注力
2. グループ全体のIT基盤高度化と情報セキュリティ強化の体制構築

不動産

1. 再開発計画の着実な実行
（兜町「KABUTO ONE」2021年、藤沢・五反野2020年）
2. 高品質で競争力のあるビル運営

2022年3月期 目標

[売上高]
640億円

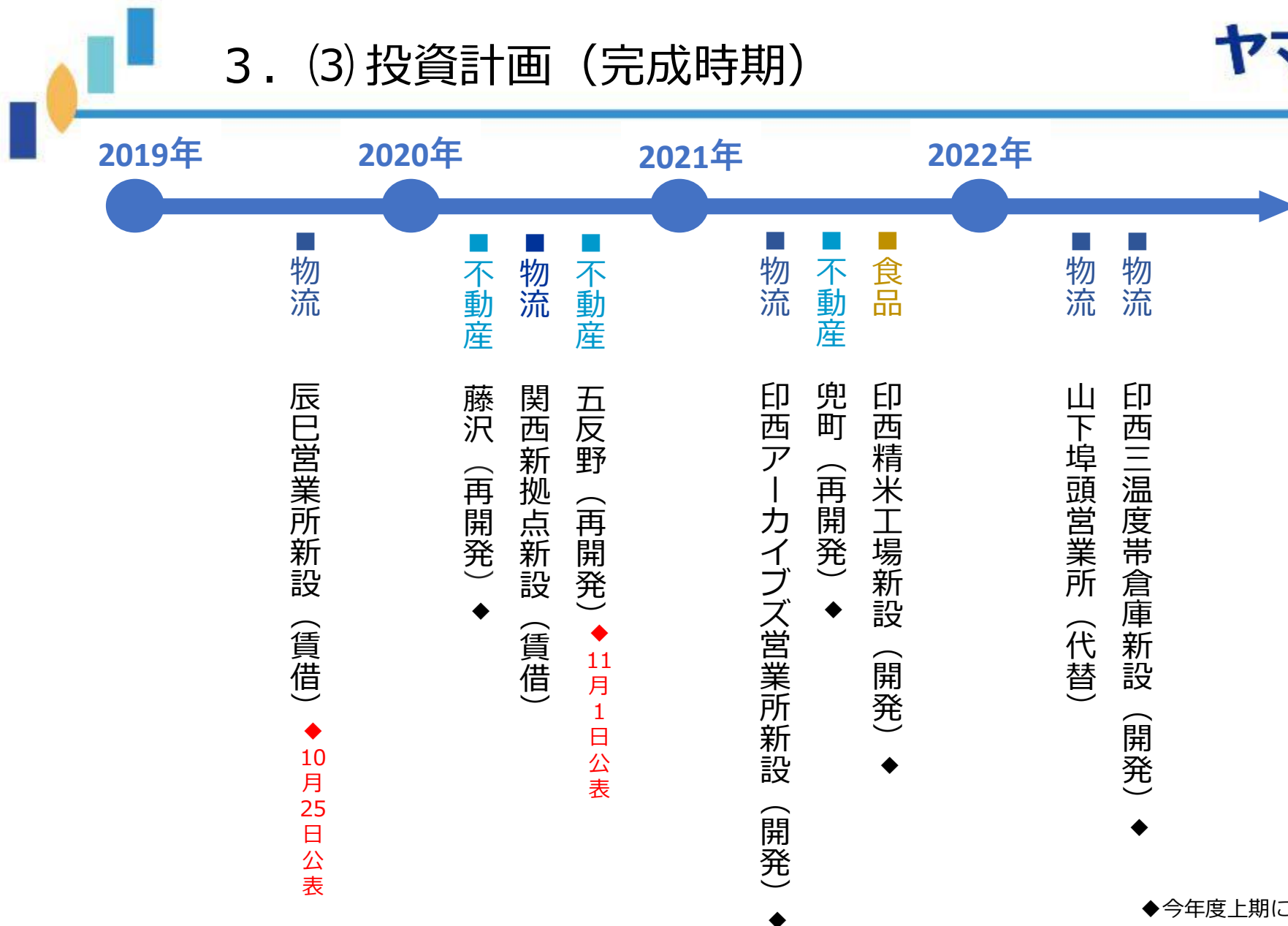
[営業利益]
42億円

[投資総額]
300億円

3. (2) 中期経営計画進捗

	重点施策	進捗状況
物流	1.既存荷主への対応と新規荷主の獲得	既存大口顧客の新拠点を開設予定。新規顧客2社の業務を受注。
	2.辰巳営業所開設（江東区<8,000坪>配送センター）	2019年11月下旬営業開始。
	3.印西アーカイブズ倉庫・3温度帯倉庫(15,000坪)2021年～	基本設計が完了し、詳細設計へ移行。
	4.海外拠点の整備・拡充（タイ・ベトナム・米国・中国）	タイ・ベトナム：拠点拡充準備中。 米国：検討中。 中国：拠点見直し実施中。
食品	1.提案営業によるシェア拡大と新規顧客の開拓	数量積上げにより既存のシェアは拡大中。 新規顧客へは継続して提案折衝中。
	2.産地協働事業の拡大による調達先との関係強化	令和2年産米の取扱数量増に向けて新規・既存先へ折衝開始予定。
	3.印西新工場稼働による生産性・品質の向上	印西新工場稼働に向け運用面の検討継続中。
情報	1.提案型ソリューションサービスの一括請負に注力	既存顧客の取引深耕による案件開拓に注力。
	2.グループ全体のIT基盤高度化と情報セキュリティ強化の体制構築	グループネットワークの統合実施中。 セキュリティ強化策実施。
不動産	1.再開発計画の着実な実行 （兜町「KABUTO ONE」2021年、藤沢・五反野2020年）	兜町・藤沢は新築工事着工、入居テナント内定。 五反野は解体工事に着手、新築工事に向け順調に進捗中。
	2.高品質で競争力のあるビル運営	コスト削減と長期修繕計画の着実な実施。

3. (3) 投資計画（完成時期）





4. 参考資料

- (1) トピックス
- (2) コメ業界の動向
- (3) 配当金

4. (1) トピックス



辰巳営業所 施設概要

◆10月25日公表

(1) 所在地	東京都江東区辰巳三丁目9番地14号
(2) 敷地面積	8,810.00㎡ (2,665.02坪)
(3) 延床面積	26,781.17㎡ (8,101.30坪)
(4) 主要構造	鉄骨鉄筋コンクリート造
(5) 階数	地上6階建
(6) 設備	常用EV3基、貨物用EV1基、垂直搬送機3基
(7) 開設時期	2019年11月



足立区所有物件の建替え計画概要（五反野）

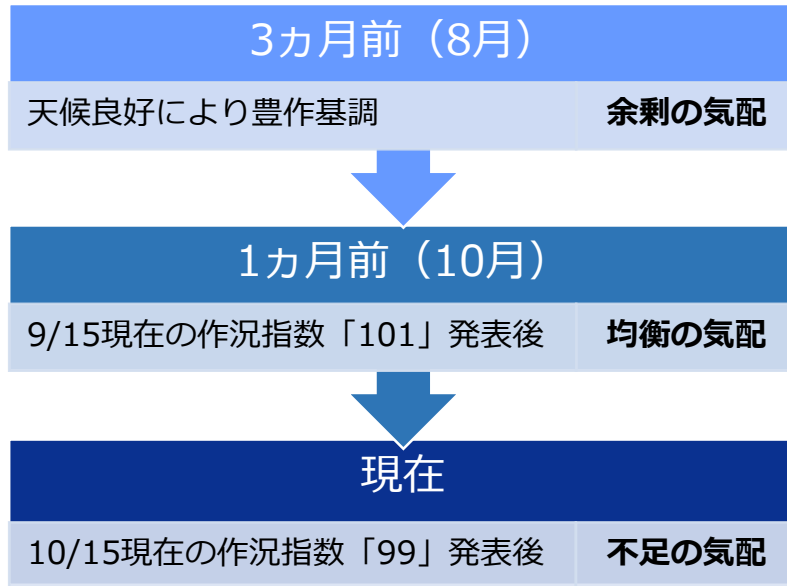
◆11月1日公表

(1) 所在地	東京都足立区中央本町二丁目51番1他
(2) 敷地面積	6,625.93㎡ (2,004.34坪)
(3) 延床面積	8,894.63㎡ (2,690.62坪)
(4) 主要用途 (予定)	1-3階：店舗（物品販売）、飲食店、診療所、 駐車場、駐輪場
(5) 主要構造	鉄骨造、一部RC造
(6) 竣工時期	2020年11月予定

※記載の内容は、今後の詳細検討により変更になる可能性があります。

4. (2) コメ業界の動向

【令和元年産動向】



【今後の米価動向】

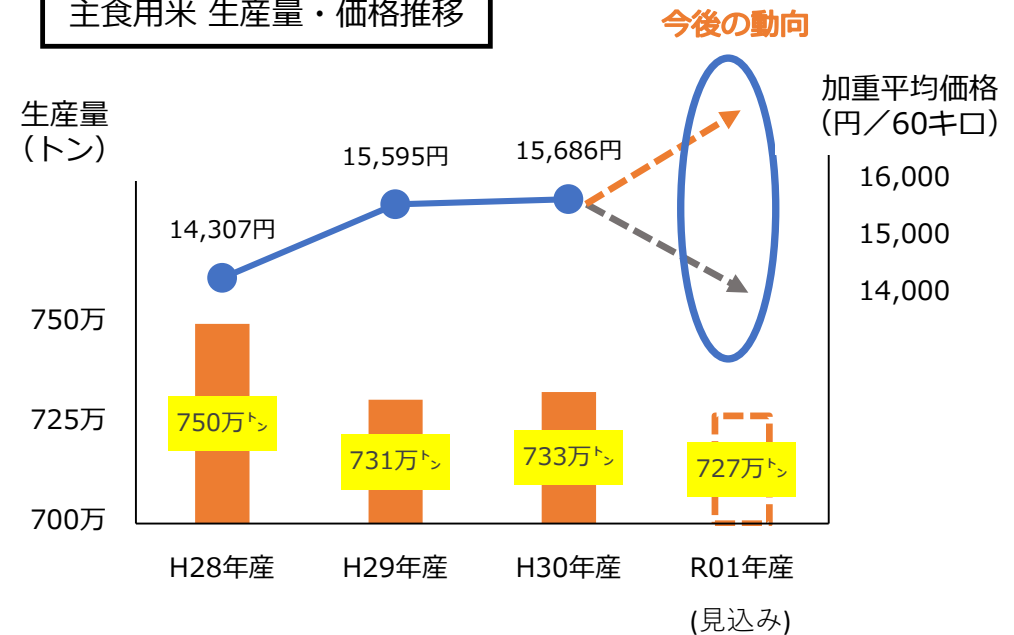
価格上昇要因

- 一部特定銘柄の不足による高騰
- 品質不良による歩留低減（不足の発生）

価格下落要因

- 米価高騰による消費量の減退
- 外国産米の使用による国産米の使用減退

主食用米 生産量・価格推移

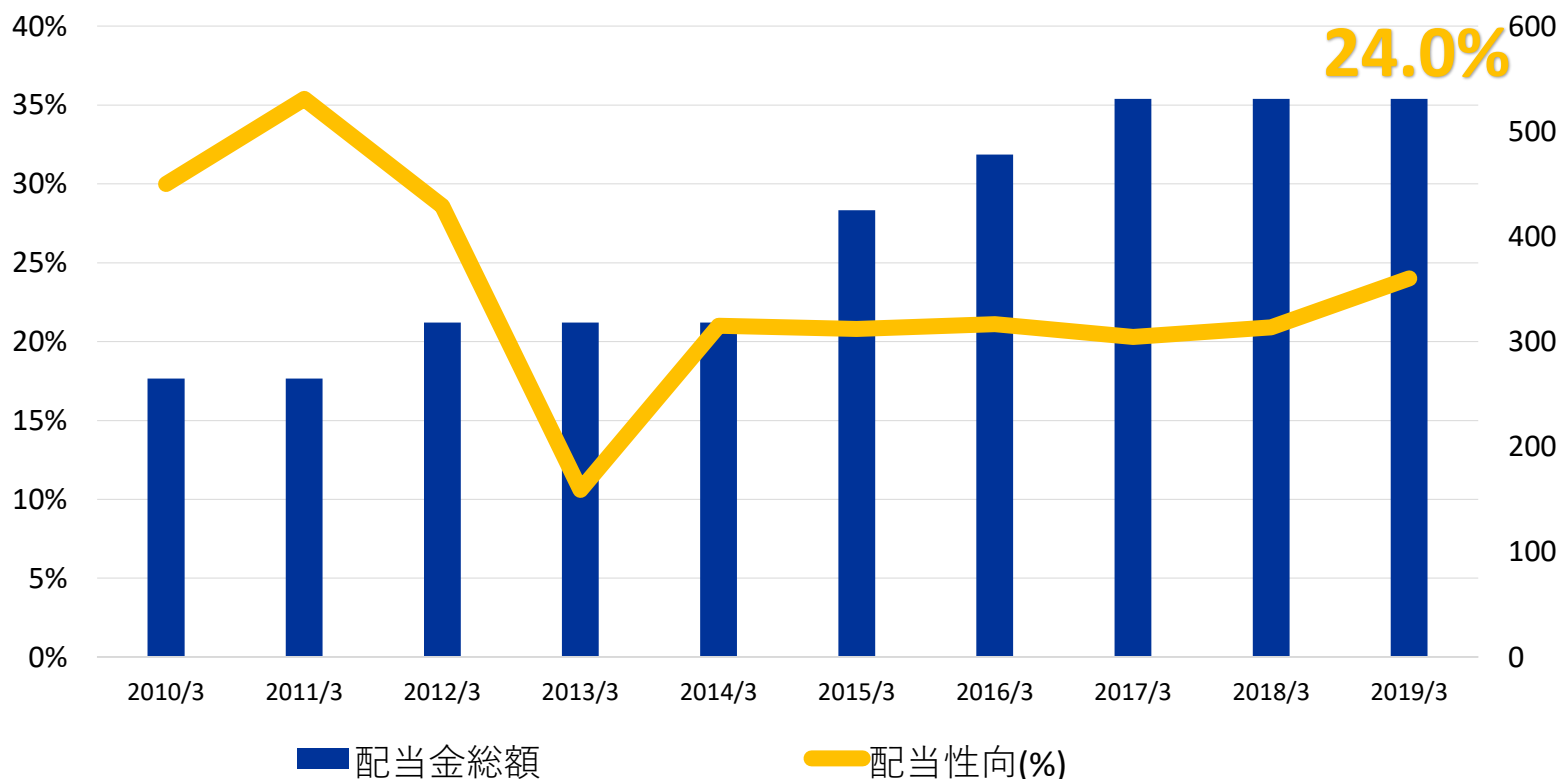


4. (3) 配当金

- ◆基本方針 : 中長期的な視点に立って事業収益の拡大と財務体質の強化を図りながら、株主の皆様への安定配当の継続。
- ◆連結配当性向目標 : 20%~30%程度。
- ◆1株当たりの配当金 : 2019年3月期50円⇒2020年3月期(予想)50円

【配当金総額と配当性向の実績推移】

(単位:百万円)





ご留意事項

- 本資料は、株式会社ヤマタネの業績動向及び事業内容について、株式会社ヤマタネによる現時点における予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来展望についても言及しております。
- これらの将来展望に関する表明の中には、様々なリスクや不確実性が内在します。既に知られたもしくは未だに知られていないリスク、不確実性その他の要因が、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性がございます。
- 株式会社ヤマタネの実際の将来における事業内容や業績等は、本資料に記載されている将来展望と異なる場合がございます。
- 本資料における将来展望に関する表明は、本資料開示時点（2019年11月14日現在）において利用可能な情報に基づいて株式会社ヤマタネによりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して、将来展望に関するいかなる表明の記載も更新し、変更するものではございません。

【お問合せ】

T E L : 03 (3820) 1111 (代表)

E-mail : kikaku@yamatane.co.jp



MEMO

ヤマタネ